

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十七年

十月

鍛錬と心もち

よき秋。天地のひきしまる秋。この季節こそ、ほんとうに、みづちりと鍛錬の出来る時です。

ところで、鍛錬といふと、専ら身體のことのやうに思ふことが誤りで、心身一つにならなければ鍛錬でありません。それと同時に、鍛錬といふと、たゞもう苦しいこと、強行一方のこと、考へられることがありますが、之れも、誤りといふ譯でないとしても、鍛錬の充分な心理を捉へてゐるものではありません。勿論、鍛錬は氣すい氣まゝでは出来ない。いやならよすで、氣にむいてゐることだけするといつたものではありません。いやでする、苦しくともする、そこに鍛錬がある譯です。

しかし、だからといつて、たゞ外から強ひるばかりで、ほんとうの鍛錬効果を擧げることは出来ません。況してや、機械的に動かされてゐるだけで、眞の鍛錬になるものではありません。それを樂しみ、それを進んでする氣もちが、内にも伴ふてゐなくては、眞に心身一體の訓練は出来ません。しかも、それを幼児に起させるものは、周圍のものゝ氣もちです。周圍のものに先づ、その氣もちが豊かに活潑にならなくては、決して眞の鍛錬は出来ません。

幼稚園から

○子どもの服装、持ちものゝ類を、質素に堅實に、そして、お母さまの手づくりにと、先月の此欄で御相談しました。それと同じく、幼稚園の方でも、物の儉約といふことを、周到に氣をつけてゐますから、御協力下さい。

○紙も大切にします。手技用には、古葉書、古雜誌の紙といつたものを使ひます。その紙だつて再生して、又新しい紙になるのですから、切つてもその切れ端でも、捨てないようにします。紙屑箱は大事な物資貯蔵箱です。

○色鉛筆、クレイオンは特に大切に扱はせませす。一本でも粗末にさせませせん。クレイオンは折れないやうに包み、鉛筆を短くなるまで用ひます。箱にしても、こはれをつくらつては、長くもたせませす。

○けちでこんなことするのはありません。これが戦時下の教育なのです。